

32歳の誕生日を迎えて思うこと

第2期OB 梶山 啓介

昨年の8月10日、32歳の誕生日を無事迎えました。そして、誕生日当日の朝、社員に向けて一言話をする機会があったので32歳の決意として、こんなことを話しました。

『32歳という年齢は、本格的に「自分が今まで何を成し遂げていたか」という実績で人から評価されはじめてくる年齢である。』

今までは、若くしてベンチャーを立ち上げて立派だね、とか、若いからこの先も期待しているよ、とか色々周りの人から声をかけてもらってきました。しかし、当然そういった視点で見てもらえる年齢にも限界があり、直観的に私は大学を卒業して10年経った、32歳という年齢がその節目だと感じました。ここで勝負をして、実績をつくるのが出来なければ、「シティバンクを退職して若くしてベンチャーを立ち上げた男」という実績にとどまってしまう。だからこそ、32歳の1年間は勝負に勝負を重ねて勝っていきたいということを社員の前で宣言したのです。

この話をするにあたり、ベンチャー経営の先輩でもあり、飲み友達でもある経営者の話を思い出しました。彼は仕事を行っていくにあたり常に、起業、事業の売却、上場など、経営者としての自分のレコード(実績)は何であるかを意識する、と話していました。私もその時はなるほど、と話聞いていましたが、32歳を前にして、2年ほど前に聞いたこの話と自分の考えが激しく重なり、先の言葉になりました。

そして、勝負の年であると宣言してから約5ヶ月間、自社サービスのコンセプトの明確化、新規ビジネスの立ち上げ、積極的な外部の協力者との連携など、これまでは選択肢として考えてこなかった方法も含め、自らにプレッシャーをかけながら走り続けています。走り続けた結果に関しては、来年のこちらのエッセイにて皆様に良い報告が出来るよう頑張っていきます。

さてここまでは、自分に対する決意。最後に、20代が多い弊社社員に対して伝えたメッセージを皆様にもお伝えさせていただきます。私は32歳を迎え本格的に、実績で評価されることの重要性を感じ始めました。これまでは、梶山という若手は何が出来るんだ！？という、期待半分、面白さ半分で周りから評価されてきたという認識で過ごしてきました。そしてそこから2つのメッセージがあります。

① とにかく色々な人と会い、「将来がある」という最大の武器をフル活用してください。

⇒諸先輩方は、若くてエネルギーのある若手を応援したいと思うものです。

① 自分の努力で自分の実績はつくられる，ということを強く思ってください。

⇒会社が駄目だから，上司が駄目だからと環境のせいにしては，実績は一切出来ません。

まだまだ時間があると思っていると，あっという間に10年という年月は経ってしまいます。

10年というと，大企業によってはまだまだ修行の時期かもしれませんが，ベンチャーという世界に身を置いている自分の感覚では，10年で実績をつくるということは，逆に長すぎるぐらいだと思います。

私は現在の考えに至るまでに10年かかってしまいましたが，後輩の皆様には，私なんかよりももっともっと早いスピードで成長して，日本の将来を背負う人材になってほしいと強く想います。将来，自分の実績だけで仕事出来るよう，お互い頑張っていきましょう。



今年の2月で2歳になる御息女